

【別添2】（様式例2）

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨高山高等学校 学校番号 58

I 自己評価

1 学校教育目標	1 「快活」「友愛」「創造」を校訓とし、心身ともに健やかで、より豊かな人間性と「生きる力」を備えた生徒の育成を目指す。 2 社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材を目指し、一般教養及び専門的知識や技術を身につけさせるとともに、創造性にあふれ、明朗快活で心豊かな人間性を養う。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー（GP） ・豊かな思考力と適切な判断力を身に付け、課題解決のため主体的に協働できる生徒 ・互いの人格を尊重し、主張や意見を交流しながら、自らの役割と責任を果たせる生徒 ・郷土を愛し、地域の発展のための課題解決を目指し、地域や社会に貢献できる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー（CP） ・課題の発見、解決能力を伸長するための「主体的・対話的で深い学び」 ・「探究的な学び」の推進 ・ICTを積極活用した教科指導・探究的な学びでの、コミュニケーション能力と情報発信力の育成 ・生徒の個性や長所を伸ばすためのカリキュラム編成と個に応じた細やかな指導の実施	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー（AP） ・向上心と、多様性を尊重する姿勢を持ち周囲と協働しながら主体的に学ぶ意欲を持つ生徒 ・高い志を持ち、その実現のために、主体的に学ぶ意欲のある生徒 ・生徒会活動や部活動、地域活動などに自主的、主体的に参加し、より良い学校や社会を築いていく意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	学習指導（教務）	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	生徒及び保護者等を対象とするアンケート結果から（令和4年度と5年度の肯定的評価の変化） 「授業の教え方や説明が分かりやすい先生が多い。」 （肯定評価の割合：生徒94%）→90% 「本校の先生は、授業や家庭学習への指導・支援等を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている。」（肯定評価の割合：生徒90%）→84% 「校では、テストの得点だけでなく、様々な面から学習の評価を行っている。（肯定評価の割合：生徒92%）→84%	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	（1）基礎学力の定着を図り、主体的・対話的な学習態度を育てます。 （2）ICT機器を活用し、授業への興味・関心を高めます。	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・両キャンパスごとに管理職、企画委員会を中心にして、各教科学科と学年会と連携をした組織。 ・管理職、教務部を中心として両キャンパス統一的に進める組織。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
（1）各学科の特性に合わせ、小テスト、朝読、タイピング等により基礎基本を反復することによって基礎学力の定着を図ります。 （2）授業公開と研究授業を通して教員同士が意見交流を行い「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を進め授業に反映します。 （3）具体的な画像や動画を見せることで、学習内容をイメージしながら理解できるよう援助します。	（1）生徒、保護者によるアンケート結果分析 （2）生徒による授業評価アンケートの結果分析 （3）ふるさと教育週間の授業公開の感想、意見	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
①岡本では7月に学校支援訪問により、観点別評価について、山田では11月に学習評価に関する職員研修会を実施し、授業計画と学習評価の関係について研修した。 ②前期と後期の2回、授業公開週間を実施し、ICT機器を活用した授業実践や授業研究を実施した。また、タブレット破損時の修理費用が保険対応となり、両キャンパスともタブレットが個人管理と	①観点別学習評価の実践によって生徒がより主体的に授業に参加できるようになったか。 ②授業改善にICT機器の活用によって、授業内容の理解が深まったか。	A B C D A B C D

<p>なった。これまで以上の活用が期待される。 ③外部企業、行政と連携した授業実践を通して、探究活動・課題研究を推進した。</p>	<p>③地域社会の実情に触れ、探究活動をすすめられたか。</p>	<p>A (B) C D</p>
<p>12 成 果 ・ 課 題</p>	<p>○ICT機器を利用した学習活動が定着し、生徒にとってわかりやすい授業が増えている。 ▲理解した内容を活用していく思考力や判断力を育成してための学習活動の研究が引き続き課題としてある。フォントをUDフォントに統一し、読みやすいプリント資料を作成する必要がある。 ○新学習指導要領のものでの観点別学習状況評価が2年目を迎えた。比較的スムーズに実施できている。 ▲課題として、観点別の学習評価によって、生徒自身が取り組みを主体的に改善していけるような指導法を研究していく必要がある。</p>	<p>総 合 評 価 A (B) C D</p>
<p>13 来年度に向けての改善方策案 ・生徒が主体的に。自らの学習への取り組みを改善していくことができるよう、観点別学習状況評価の進め方を更に研究していく。</p>		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月26日

<p>【意見・要望・評価等】 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒と保護者等を対象とするアンケートの結果は肯定的評価が高い。これは授業や学習支援において個々に対応した指導と評価を行っている先生方が多いということである。今後も続けてほしい。 ・学習成果発表会においてほぼ全ての発表でICT機器を利用していた。これは日頃から先生方の指導のもと、授業のみならず、様々な場面で機器を活用している成果である。高く評価したい。 </p>
--